

令和5年度 多摩市立愛和小学校 学校評価書

学校教育目標	
人間尊重の精神を基調として、広く社会において信頼と尊敬が得られる、心身ともに健康で自ら考え判断して実践できる児童の育成	
○考える子	すすんで粘り強く学び 協働し高め合う児童
◎思いやる子	生命を敬い 心豊かによりよく行動する児童
○健やかな子	心も体もたくましく 体力向上に努める児童
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
・子供が「今日も楽しかった。明日も学校が楽しみ。」と思える学校 ・全教職員で全校の子供を見つめ、安全・安心に過ごせる学校 ・保護者・地域から信頼され、地域・保護者と共に歩む学校	
目指す子供像	目指す教師像
・自分の思いを人に伝え、相手の思いを受け止め、互いに認め合い、高め合う子供 ・体験から感じ考え、「分かった」「できた」「やりとげた」という喜びや楽しさを素直に感じ取れる子供 ・地域や社会と進んで関わり、調和を大切にできる子供	・たゆみない努力と工夫により、全ての子供が活躍できる教育活動が展開できる教師 ・子供一人一人を大切にし、子供に寄り添い、子供と向き合う教師 ・学校を大切にし、保護者や地域から信頼される教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1)確かな学力の育成

重点目標	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
重点目標	・基礎学力の定着 ・言語活動を基盤とした思考力・判断力・表現力等の育成 ・学びに向かう姿勢の向上			
評価項目 (目標とする成果・指標%)				
各学年の課題を分析して指導を工夫し、授業及び朝学習、家庭学習等を通して、児童が東京ペーシックドリルの算数で達成率75%以上になるようにする。	3	宿題は、83%の児童が提出し、74%が授業等以外に自分で勉強し、昨年度より向上した。評価項目の達成率は71%であったが昨年度より向上したので、引き続き各学年の課題をもとに授業改善を図っていく。	A	・ICT機器の活用を中心とした指導の工夫、分かりやすい授業については、児童・保護者ともに高い評価を得ており、主体的協働的な学びの実践、課題解決型学習を通して、課題解決能力の育成状況は、目標としていた数値は達成できているので適切な評価と考える。
SDGsを踏まえたESDの視点に立ち、体験的な活動を通して、主体的・協働的な問題解決能力を高め、70%以上の児童が自分の考えを表現できるようにする。	4	校内研究で「主体的に考え、自分の考えを表現できる児童の育成」をテーマに授業研究を行った結果、児童アンケートの「問題解決学習が楽しい」は93%と高く、「自分の考えを表現できる」は79%と目標に達したが教員の評価は2%下がったので引き続き授業改善を図りながら繰り返し指導を行っていく。	A	・主権者としての主体性が表現できるよう、学習の豊かさをもとめていければと思う。
授業のめあての明示と振り返り活動を重視し、ICT機器の活用等による授業改善に取り組み、「分かった」「できた」と自己の学びと成長を実感できる児童を90%以上にする。	4	ICT機器の活用により、視覚的に分かりやすい提示を工夫するなど、「分かる・できる」を意識した工夫を授業で取り入れ、92%の児童が「分かった」「できた」と実感し、保護者も91%が達成していると感じている。	A	・発達の苦手をもっている子への指導を工夫してほしい。
評価のまとめ	学習に困難を抱えている児童への指導・支援を更に充実させるため、学校全体で手立てを考える。また、学年の課題をもとに「分かる・できる」に十分配慮した授業を計画・実施し、日々、児童の実態をもとに授業改善を行い、個別の支援も工夫し続けていく。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2)豊かな心の育成

重点目標	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
重点目標	・心身共に安全・安心な学校づくり ・自他の個性を温かく認め合い、高め合う学校づくり ・道徳的価値の向上と実践力の育成			
評価項目 (目標とする成果・指標%)				
社会性や規範意識を高めるために「愛和スタンダード」を活用し、決まりやルールを守ることができる児童を90%以上にする。	3	児童92%、保護者96%が決まりやルールを守って生活できていると回答しているが、教員の回答は75%と差異がある。学校のきまりやルールについて、児童の実態に合わせたものに変更していくことが必要と考える。	B	・「人の良いところを見つけることができる」「ルールを守ることができる」のはすばらしいと思う。学校の雰囲気はこういうところから生まれていくと思うので思いやりのある校風でありたい。
なかよし班活動や異学年交流等、自他を尊重し、思いやりの心を育む場を設定し、いじめの未然防止につなげ、学校が楽しいと思う児童を90%以上にする。	4	学校行事等については96%の児童が楽しく取り組んでいる。「学校が楽しい」と感じている児童は84%で昨年度と同じであった。学校が楽しくないと考えている児童の意見を分析し、課題を改善していく。	A	・学校行事に対する期待度、学校教育全体の満足度についても高い数値であり、児童・保護者の回答からも親和的な学級・集団作りが進められている様子がうかがわれる。引き続き、愛和の名の示す心の育成、集団作りを期待したい。
「特別の教科 道徳」を核として、考え議論する道徳授業の実施と温かな学年・学級・専科経営を行い、90%以上の児童が互いに認めたり、励ましたりすることができるようにする。	4	「すごいと思う友達がいる」児童は91%、「励ましてくれる友達がいる」児童は90%と昨年度より向上した。引き続き全ての教職員で児童の良さや頑張りを積極的に褒め、温かな人間関係づくりに努める。	A	
評価のまとめ	学校のきまりやルールについて、児童の実態に合わせて指導していく。また、学校が楽しくないと考えている児童の意見を分析し、手立てを考え、課題を改善していく。児童が互いに認めたり、励ましたりすることができるよう、引き続き、児童の良さや頑張りを中心に褒めつつ、児童が互いの良さに気付いたり、お互いに助け合ったりする機会を設け、人間関係を深めていく。			

(3)健やかな体の育成

重点目標	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
重点目標	・心身の健康教育の充実 ・安全教育・防災教育の充実 ・「学校2020レガシー」の継続と体力の向上			
評価項目 (目標とする成果・指標%)				
「早寝・早起き・朝ごはん」「歯磨き」の習慣化を図るために、月1回以上の生活習慣に関わる集会等を実施して、80%以上の児童が望ましい生活習慣を身に付けるようにする。	4	朝食を食べている児童は96%と高いが更に向上を目指す。一方、早寝早起きが身に付いている児童は昨年度と同じ76%であった。保護者会等でSNSルールの周知と徹底を行い、学校・家庭で連携し指導していく。	A	・早寝早起きの保護者と児童・教員の回答の差が生活習慣の定着の課題でもある。共通の認識と家庭環境の違いを意識した指導の展開がのぞまれる。
毎月1回、様々な想定をした避難訓練や安全指導を通して児童の危機回避能力を向上させる。	3	月1回の避難訓練は毎回、異なる設定で実施し、毎月の安全指導朝会ではテーマを決め、学年に応じた指導を行っているが、日常生活での実践力の定着が不十分である。	A	・身体を動かすことや活発に遊ぶことは、心身のバランスを取るために不可欠で、生活・学習に繋がるため、継続して取り組んでいただきたい。
オリンピック・パラリンピック教育の成果を生かした体育健康教育の充実と「学校2020レガシー」の取組の充実を図り、体カテストの活用及び外遊び等の日常的な運動習慣の定着を通して85%以上の児童が主体的に運動できるようにする。	3	体カテストを踏まえた体育の授業改善やなわとび旬間等を通して、85%の児童が外遊びやスポーツに取り組み、昨年度より向上している。しかし、教員は82%、保護者は79%と、目標を下回っている。次年度はB時程の日も昼休みを設定し、児童が外遊びできる時間を増やしていく。	A	・体力向上については授業の工夫が見られ、更に子供たちの興味を高める取組があるといい。
評価のまとめ	生活習慣については、保護者会等でSNSルールの周知と徹底を行い、学校・家庭で連携し指導していく。また、避難訓練や安全学習・安全指導では、日常生活での実践力を高める指導を工夫する。体育の授業改善や外遊びの奨励等に加え、次年度はB時程の日も昼休みを設定し、児童が外遊びできる時間を増やしていく。			

(4)家庭や地域との連携

重点目標	・学校公開及び授業参観の充実 ・コミュニティ・スクールとして、保護者・地域の声を生かした教育活動の改善・充実 ・地域人材・地域の教育力の活用		
評価項目	自己評価		学校関係者評価
	評語	現状の分析と改善策	評語 学校運営協議会委員の意見
学校公開、授業参観、保護者会、ホームページ、メール等で本校の教育活動を積極的に発信し、学校評価の保護者アンケートで85%以上の肯定的評価を目指す。	4	各種便りやホームページ、学校LINE等で情報発信を心がけた。保護者アンケートでは肯定的評価が平均 88%以上で目標に達した。13 項目中 3 項目が 85%未満のため、教育活動の更なる情報発信に努める。	A ・学校の公開度、情報発信については、保護者アンケートに項目がなく評価が難しい。保護者・地域との連携協力の取組についても、関係者評価が必要。地域未来塾の取組実績については、適切な評価である。 ・地域学校協働本部での保護者の方々の活動や地域未来塾の方々の協力で、参加する子供が多く、自主学習が身に付いていく助けとなっていると感じた。 ・地域を含め多くの方と関わることは大切で有用なことであるが、拡げる程、労力も増すと思うので、適切なバランスを保ちたい。 ・地域との連携を幼稚園としても深めていきたいと考えている。 ・放課 GO クラブに学童から人員を出し、連携できた。
コミュニティ・スクールを推進し、地域とともにある学校づくりの実現に向けて、学校運営協議会や地域学校協働本部の相互のつながりを高め、学校評価の保護者アンケート 80%以上の肯定的評価を目指す。	4	学校評価の保護者アンケートでは肯定的評価が平均 88%以上で目標に達した。全 13 項目中「家庭学習の習慣」の内容の項目が 74%と肯定的な回答が低かったため、地域未来塾の運営や指導方法について検討している。	A
地域学校協働本部と協働した、放課後子ども教室や地域未来塾を実施する。	4	朝・放課後の学習教室が 9 か月(予定 12 か月)35回実施し(R5 年 12 月現在)、延べ 1385 人が参加し、申し込みした児童の 94%が自主学習に取り組んだ。放課後子ども教室では、外遊びの機会をつくり、プログラミング教室も行うことができた。今後も地域学校協働本部との連携により地域人材の充実を図っていく。	A
評価のまとめ	評価項目について、学校関係者の方が評価しやすいように改善を図る。また、「家庭学習の習慣」の向上を図るため、地域未来塾の運営や指導方法について検討している。今後も地域学校協働本部との連携により地域人材の充実を図っていく。		

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

学校、保護者、地域及び児童全体で、教育目標と目指す学校像、児童像を共通理解できるよう、令和6年度も教育目標を「考える子」「思いやる子」「健やかな子」と継続し、「思いやる子」を重点として教育活動を展開する。 「考える子」・・・すすんで粘り強く学び 協働し高め合う児童 育てたい資質・能力「主体性」「協働性」「問題解決能力」 ◎「思いやる子」・・・生命を敬い 心豊かによりよく行動する児童 育てたい資質・能力「協働性」「人間関係形成力」 「健やかな子」・・・心も体もたくましく 体力向上に努める児童 育てたい資質・能力「主体性」「自立心」 「子供が生き生きと活躍し、生涯をたくましく生きていく力を育む教育」という目標を共有し、社会と連携・協働しながら教育課程の実現を図る。 特に、以下の3点を課題として捉え、課題改善を図る。 ① 基礎・基本の定着 「地域未来塾の活用による学習習慣の定着」「授業における振り返り活動の工夫」 ② 学習意欲の向上 「体験的、協働的な学習の充実」「ICTを効果的に活用した授業」 ③ いじめ・不登校対策 「いじめ・不登校の未然防止に向けた組織的対応の強化」「道徳教育の充実」 コミュニティ・スクールとして、学校と地域が連携し、子供たちが自分らしく成長できる教育活動を推進していく。

以上のとおり報告いたします。

令和6年2月28日

多摩市立愛和小学校 校長 則末 久美子

公印

令和5年度 学校評価書



多摩市立愛和小学校